

# 「イベント学研究」査読規程・体制

イベント学会  
「イベント学研究」編集委員会

## 第1条 査読対象

1. 本誌に投稿される原稿のうち、総説・原著論文・研究資料は査読対象とする。
2. 実践報告・書評については査読の対象外とし、編集委員会が内容確認と基本的な校正を行う。
3. 文献紹介・討論・特別寄稿などその他の原稿については、編集委員会が掲載可否を決定する。

## 第2条 査読体制

1. 総説・原著論文については、編集委員会が選定する2名の査読者によって査読を行う。
2. 研究資料については、1名の査読者によって査読を行う。
3. 査読者のうち少なくとも1名は編集委員会外の専門家とする。
4. 査読はダブルブラインド方式により行い、著者・査読者双方の匿名性を保持する。

## 第3条 査読期間および修正期間

1. 査読者は依頼を受けてから4週間以内に査読報告を提出する。
2. 投稿者は修正依頼を受けてから4週間以内に修正版原稿（修正箇所を明示）および修正対応表を提出する。
3. 修正原稿および修正対応表は必要に応じて再査読に付され、その場合も査読期間は4週間以内とする。

## 第4条 判定区分

1. 査読結果には査読者の所見とともに、以下の判定区分を明記する。
  - A：掲載可
  - B：修正後の再審査を要する
  - C：掲載不可
  - D：審査困難
2. 査読者2名の判定が一致しない場合（例：1名が「C」と判定した場合）、編集委員会は3人目の査読者に審査の依頼を行う。
3. 「D」と判定された場合、編集委員会は速やかに別の査読者を選任し、査読を依頼する。

## 第5条 判定と通知

1. 編集委員会は査読結果を基に、判定結果および査読者の所見を投稿者に通知する。
2. 掲載可（A）と判定された日を受理日とする。

## 第6条 倫理規定

1. 投稿論文は未発表であり、他誌への二重投稿・剽窃・捏造・改ざんを含まないことを前提とする。
2. 利益相反がある場合、著者および査読者は事前に申告しなければならない。
3. 投稿原稿の内容に関する責任は著者に帰属する。